

- 1、題目は、一行めの三ばんめか四ばんめのマスから書きましょう。
- 2、学校・学年・組・氏名は二行めに書きましょう。
- 3、文章は三行めから一字さげて書きはじめましょう。
- 4、文章の構想をしっかりと立ててから書きはじめましょう。各段落のはじめはかならず一字さげて書きはじめ、一つの段落がおわったら行を変えましょう。

() 月 日 曜日

みんなが住みやすい世界へ

鹿屋東中学校 一年 中武 優希

「世界には、たくさん、人の助けを必要と
している人がいる。」

私は、本でそう読んだ。助けを求めている
人は、障害を持っていての方や、高齢の方など
たくさんいることは分かっている。しかし、
助けるためには、何をすればいいのか、どの
ようなことがされているのか、あまりよく分
からない。だから、この作文でよく知ってい
きたい。

中学校

例えば、横断歩道の信号が青に変わったと
きに、音がならない信号が多い。また、時々、
点字ブロックが欠けていることがある。この
ようなことを考えると、助けを必要としてい
る人がいても助けることができない。
この前、目をつぶって、点字ブロックの上
を歩いてみた。途中で、分かりにくい点字ブ
ロツクがあり、目を開けてみると、横断歩道
の前だった。みんなが踏んで、点字ブロック

No. 1

- 5、読みやすいように、と。とをしつかりつけましょう。と。とは、それぞれ一字にかぞえて、マスのなかの右上のほうにつけましょう。
- 6、人が話したところは、「」のなかに入れましょう。「」は、それぞれ一字にかぞえてマスのなかに入れましょう。
- 7、漢字やかなづかいに気をつけ、特に「は」と「わ」、「へ」と「え」、「お」と「を」、しつかり使いわけましょう。
- 8、書きおわったら、何回も読みなおし、まちがいをなおして、たりないことをおきない、むだなことをけずりましょう。

(不許複製)



- 1、題目は、一行めの三ばんめか四ばんめのマスから書きましょう。
- 2、学校・学年・組・氏名は二行めに書きましょう。
- 3、文章は三行めから一字きけて書きはじめましょう。
- 4、文章の構想をしっかりと立ててから書きはじめましょう。各段落のはじめはかならず一字きけて書きはじめ、一つの段落が終わったら行を変えましょう。

（ ） 月 日 曜日

が割れていた。これらのものを直すことによ
 って、視覚障害者の方が住みやすい世界にな
 ると思う。

また、公園にゴミ箱がないこともなおして
 いく必要があると思う。ゴミ箱が無いため、
 公園にゴミを捨てて帰ってしまふ人もいる。
 そのため、周りの人がゴミを拾って持って帰
 って捨てる、ということがある。私は、少し
 でもみんなが快適にすごせるように、見つけ
 たゴミは、拾うようにしている。

中学校

このように、自分のゴミを持って帰って捨
 てない人がいるため、公園にゴミ箱を置く必
 要があると思う。

また、夏休み期間中には、二十四時間テレ
 ビがある。この二十四時間テレビは、募金を
 している。その募金にも、積極的に参加して
 いきたいと思う。

私が小学生の時に、町探検で、老人ホーム
 に行つたことがある。その中には、大正生ま
 れのおばあさんがいた。その方は、目がほと

(不許複製)

- 5、読みやすいように、と。とをしつかりつけましょう。と。とは、それぞれ一字にかぞえて、マスのなかの右上のほうにつけましょう。
- 6、人が話したところは、「」のなかに入れてください。「」は、それぞれ一字にかぞえてマスのなかに入れてください。
- 7、漢字やかなづかいに気をつけ、特に「は」と「わ」、「へ」と「え」、「お」と「を」をしつかり使いわけましょう。
- 8、書きおわったら、何回も読みなおし、まちがいをなおして、たりないことをおぎない、むだなことをけずりましょう。



- 1、題目は、一行めの三ばんめか四ばんめのマスから書きましょう。
- 2、学校・学年・組・氏名は二行めに書きましょう。
- 3、文章は三行めから一字さげて書きはじめましょう。
- 4、文章の構想をしっかりと立ててから書きはじめましょう。各段落のはじめはかならず一字さげて書きはじめ、一つの段落がおわったら行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

んど見えないらしかった。私は、そのとき、
 目が見えない方って本当にいるのだろうか、
 と思っ てしまった。だが、家に帰ったあと、
 インターネットで調べてみると、視覚障害
 を持つている方は、日本に三十万人以上いる
 ということが分かった。

私の周りには、福祉を必要とする方は、分
 からないだけで、沢山いるのかもしれない。
 見た目だけでは分からない、福祉が必要な人
 も過ごしやすく、快適に過ごせる世界にして

中学校

いく必要がある。
 もっとより良く過ごすためには、みんなが
 自分のためだけにではなく、みんなのために生
 活をすることが大切だ。公園のゴミ拾いや、
 困ってそうな人に声かけをするなど、周りの
 みんなが笑顔になれるような行動をこの夏休
 みに心掛けていきたい。
 視覚障害を持つている三十万人以上の方の
 ために、障害のある方のために、日本全国の
 人のために、そして、世界のために、自分で

(不許複製)

- 5、読みやすいように、と。とをしつかりつけましょう。と。とは、それぞれ一字にぞえて、マスのなかの右上のほうにつけましょう。
- 6、人が話したところは、「」のなかに入れましょう。「」は、それぞれ一字にぞえてマスのなかに入れましょう。
- 7、漢字やかなづかいに気をつけ、特に「は」と「わ」、「へ」と「え」、「お」と「を」をしつかり使いわけましょう。
- 8、書きおわったら、何回も読みなおし、まちがいをなおして、たりないことをおきない、むだなことをけずりましょう。



- 1、題目は、一行めの三ばんめか四ばんめのマスから書きましょう。
- 2、学校・学年・組・氏名は二行めに書きましょう。
- 3、文章は三行めから一字さげて書きはじめましょう。
- 4、文章の構想をしっかりと立ててから書きはじめましょう。各段落のはじめはかならず一字さげて書きはじめ、一つの段落が終わったら行を変えましょう。

(月 日 曜日)

できることは、ほんの僅かかもしれない。でも、その僅かが、いつか人を救う。
私が、この作文を通して、知ることができたのは、視覚障害者数だけでも、三十万人以上、障害を持っている方の数は、日本で、三百三十万人。調べていると、いままで見えなかったことが見えてくる。福祉は、なくてはならない、とても大切なもの。私は、この作文を読んで、そう思ってもらいたい。

中学校

No. 4

- 5、読みやすいように、と。とをしつかりつけましょう。と。とは、それぞれ一字にかぞえて、マスのなかの右上のほうにつけましょう。
- 6、人が話したところは、「」のなかに入れましょう。「」は、それぞれ一字にかぞえてマスのなかに入れましょう。
- 7、漢字やかなづかいに気をつけ、特に「は」と「わ」、「へ」と「え」、「お」と「を」とを、しっかりと使いわけましょう。
- 8、書き終わったら、何回も読みなおし、まちがいをなおして、たりないことばをおぎない、むだなことばをけずりましょう。

(不許複製)

